

幾山河

第27号

平成26年 5月15日

発行

公益社団法人沼津牧水会

目次

『創作 百巻記念号』	
発刊を終えて	2
『創作』百年と記念号	
に寄せて	3
「日本ほろよい学会」	
秋田大会への参加	7
第60回沼津牧水祭	
碑前祭・芝酒盛	10
短歌大会	11
第26回 雛の歌会	12
文化講座	13
サロン音楽の夕べ	14
平成25年度事業報告	15
定款・編集後記	16

『創作 百巻記念号』 発行を終えて 若山聚一

わかやましゅういち

二〇一三年(平成二十五年)は創作社にとって記念すべき年であった。若山牧水が短歌誌『創作』を一九一〇年(明治四十二年)に創刊し、百巻記念を迎えたからであった。

途中戦争等で休刊の時期があり、百三年という時間がかかってしまったのではあるが。

全国に千近くあると言われる短歌誌でこれまで創刊百年を迎えられたのは僅か三誌しかない。佐佐木信綱の『心の花』(一八九八年)尾上柴舟の『水甕』(一九一三年)である。

現在短歌に親しむ人は多いが、短歌結社に属する方は激減し、各結社共社友の高齢化と減少に深刻に悩まされており、今後百年を迎えられる短歌誌は少なくなるものと思う。



『創作 百巻記念号』

百年という時間は、太陽系四十六億年、人類の歴史数百万年から見れば稲妻の様な一瞬の間かも知れないが、人間として生きる一生の時間から見ると永遠とも思える永い時間の積み重ねである。発展と永続を目的とした企業においても創業から百年を迎えられるものは数%に満たないと言われる。その中でお互い生業とは関係ない趣味の集まりである『創作』の様な結社誌が栄枯盛衰を繰り返したとは言え、百年間続いたということは本当に奇跡に近いと言わざるを得ない。それには一度会った人を必ず虜にってしまった牧水の性格と人柄の良さに、そして一度聞き一度口ずさむと覚えてしまうという牧水の歌の調べの良さと平明さに拠る処は大きかったには違いないが、この百年というとてもなく永い時間、牧水の短歌に対する愛情、信念を支え続け、短歌という日本古来の優れた伝統文化を深く愛してくださった何万という多くの社友の方がいてくれて初めて成し得た快挙と言ってもいいのではないか、と思う。今回この記念号を刊行するに当たり、現代歌壇を代表する歌

人の先生方に、そして各地の牧水関連の様々な方に素晴らしい「牧水私感」を頂き「百巻記念号」に華を添えて頂いたことに深く感謝している。

今回の記念号の発行に当たり、姉・榎本望子は喜志子・旅人・いく子時代を通じて数十年の間『創作』の発行に携わり、自宅に創刊当時の『創作』の殆ど全てを備えてくれた。私は旅人が喜志子亡き後、建築設計事務所を閉めて『創作』を担当し、歌壇に入りその後大変な苦勞をして来たことを目の辺りにし、「将来何があっても短歌の世界とは関係を持たない」として旅人・いく子の許可を得、短歌とは全く無縁の生活を送って来た。

そんな私が九年前、思っても見なかった『創作』の発行、運営を引き受けざるを得なくなり、昨年百巻を迎えての記念号を編纂する上での準備を榎本望子が整えておいてくれたことが、百年間の資料の編纂という膨大な作業時間を大きく短縮出来たことと思ひ、感謝している。

そしてまた、この刊行に当たった莫大な費用の負担についても協力をいただいた多くの社友並びに各地の牧水関係の皆様から御礼を申し上げたい。

『創作』百年と記念号に寄せて

えのもとむらこ
榎本篁子

わがこころ澄みゆく時に詠む歌か詠みゆくほどに澄める心か
牧水

五十年生きの尾に曳き曳きて来てなほ曳きやめず歌の奴よ
喜志子

明治四十三年三月、牧水並びにその同志は理想をもって短歌誌『創作』を創刊、百三年後の平成二十五年百巻を迎えた。

それは百年一世紀という「時」を記録した資料であり関わってきた牧水関係者にとつては身近な生きた歴史書といえる。

その頃の世相といえは、日露戦争が五年前に終結し、日韓併合がなされ、明治から大正へ移行するという時代であった。



『創作』創刊号

そのような大変な変化の時代は若者のエネルギーも出口を求めていたためか、あふれる情熱が一点に集中したような意気に満ち満ちた『創作』の発刊であった。そこには、尾上柴舟、太田水穂、窪田空穂、興謝野寛、前田

夕暮、土岐善麿、北原白秋、石川啄木、相馬御風、川路柳紅、四賀光子、今井邦子、中川一政、表紙画には高村光太郎、茨木猪之吉（日本のセガントーニといわれた山岳画家・牧水友人）等々、後の日本文壇、画壇を背負った人々が名を連ねている。
佐佐木信綱発行の『心の花』を筆頭に『水甕』『創作』と短歌誌発刊の播種期ならではの豪華さである。



牧水



喜志子



喜志子 書斎にて



牧水 書斎にて

牧水と喜志子（『創作百巻記念号』の口絵から）

『創作』の来歴は大きく分けて、◇創刊からその休刊までの第一期 ◇大正二年再刊にむけての第二期 ◇牧水の『創作』として本格的に取り組んでいった第三期 ◇創刊者牧水の没後から新体制への第四期 ◇第二次大戦後の復刊から現在まで、の五段階に分けられるが、その第二期は揺籃期に登場した歌人にとっての次のステップへの移行、その趣旨に沿っての動きとも重なり、それぞれの道に分かれていったのも必然であった。その意味でも詩歌文学に対する牧水の情熱が、その創成期に『創作』を発刊した意義は大きかったといえよう。

以上成り立ちから現在までの『創作』の概要を記したが、その根底にあるのは牧水の歌に対する思いである。

目立たないのは結局その人の力量問題に帰するではあらうが、皆が皆申し合せた様に個性の無い作をつくる点が大いに関係してゐる。あまりに「うはの空」で皆が作つてゐるからである。「自分」を忘れて「手さき」で為事をしてゐるからである。理解なしに事を為してゐるからである。「歌」に対して理解なく、「自己」に対して理解を持たぬからである。とにかく、もう少しどうにかしませう。もう少し本氣

になつて歌をやつた所で、決して諸君の損にはならない。これだけは事実だ。何も「歌」のためや「歌壇」のためや、「歌の雑誌」のためや、地位名望乃至歴史的の欲求から云ふのではない。まことに「その人一生」のために云ふのである。墳墓に入る際、せめてもの心やりのために云ふのである。

『創作』第七巻第七号 大正八年八月
牧水は『創作』はその人のための『創作』であり、何より社友ひとりひとりを心にかけて、真剣に語りかけていた。社中は何ともいえない温かさがあつたという。

その牧水の心のもとに本当に数多くの先達が、幾度もの危機がありながら次の代を育て、そして又を繰り返してきた尊い結晶の百巻なのである。

このように、牧水はわずか四十三年の時間の中でしか存在しなかったが、その残したものが多くの人々によつて今に生かされていて、その一つが『創作』であつた。

それと共に、宮崎県日向市の若山牧水記念文学館、静岡県沼津市若山牧水記念館、並びに全国の牧水顕彰会、宮崎県若山牧水賞等々、牧水を基幹として活動し、それぞれの領域で牧水を支援、顕彰されている。このたび『百巻記念号』の編集に当たり、そのことを覚え

て記念号の構想をたて編集を進めていった。

そしてまずは『創作』の基盤である短歌作品を中心に据え、百巻現在在籍の社友には作品十首、それに付随して『創作』への思い、また思い出等の随想も併せて募り、歴史に名を留めていただくことを第一に。そして先に挙げた牧水を大切にしてくださっている全国牧水関係の方々からご寄稿賜れたら、を第二として構成し、第一章を特別寄稿、第三章を社内特集とした。続いて過去百年の『創作』の歴史を可能な限り幅広く御紹介したく、それを第二章にまとめた。また限られた紙面の中での情報伝達手段には写真の力が大きいとして口絵

「創作」第百巻記念号 目次

口絵写真	若山 聚一
「創作」創刊百巻記念を返して	若山 牧水
「創作」発刊に就いて	第一章 特別寄稿
牧水短歌の不思議―熱きしらべの力―	岡野 弘彦
牧水のこと・「創作」のこと	「心の花」主筆・早稲田大学名誉教授 佐佐木幸綱
「創作」と牧水	若山牧水記念文学館館長 伊藤 一彦
なぜ牧水なのか?	「樹林」主筆 大坂 泰一
牧水と喜志子	書家 榎倉 香都
「創作」百巻記念号発刊にあたって	日向市長 黒木 健一
「創作」百巻記念号発刊に寄せて	延岡市長 首藤 正治
牧水と沼津がつなぐもの	沼津市長 栗原 裕康
ふるさとの牧水により	日向市東郷町若山牧水顕彰会会長 小林 理教
牧水のふるさと	延岡市若山牧水顕彰会会長 塩月 眞
「創作」百巻を祝す……公益社団法人沼津牧水会理事長 林 茂樹	名歌「幾山河」誕生の地・哲西町 哲西町牧水顕彰会会長 水地 秀寿

写真にも力を入れた。

その一部ではあるが、ご紹介すると、

①『創作』創刊号から平成二十五年百巻までの『創作』の流れを表紙によって呈示した。創刊号から第二号までは大判で、表紙画は木下茂、高村光太郎、茨木猪之吉などが担当、明治末の斬新なデザインと色づかいに驚き、また後の画壇の巨匠中川一政が画を描きはじめてすぐの大正五年から毎号ではないが牧水没後昭和十九年まで、表紙を描いてくださった贅沢さ目を見張った。



牧水13回忌追善全国社友大会(昭和15年 乗運寺)

②



牧水13回忌追善全国社友大会
(千本浜公園牧水歌碑前)

② 牧水が本来の企画力を発揮した大正十二年「大会記念号」、九月の関東大震災の特集「大震災大火記念号」、「創作社社友名簿」、「詩歌時代」。没後の「牧水追悼号」、第二次大戦後の復刊号から現在までを各々の記念号の表紙によって著し、また社内折々の写真によって少しでも百年の歳月を偲ぶ縁となれたら、

を願って口絵写真を編んだ。

以上、かいつまんでの概略となったが、紙面の都合上詳しい内容は目次をみていただくことでおゆるしを乞いたい。

紆余曲折を経て平成二十五年十一月、無事『百巻記念号』を刊行することができた。

牧水に酔う……………東京牧水会会長 田原 大三 36	思い出すままに……………恒歌誌「朝霧」主宰 山村 泰彦 39	「わか」あての喜志子の手紙……………恒歌誌「彩雲」主宰 田中 伸治 43	「創作」との出会い……………平賀 徹 45	「創作」と無縁……………日向市若山牧水記念文学館(前)事務局長 那須 文美 47	「創作」六十周年社友全国大会の盛会に学ぶ……………前延岡図書館館長 九鬼 勉 51	「創作」創刊百巻を祝して……………大悟法雄作 53	牧水と両親……………三宅 勇介 56	香貫山考「牧水と王城徹」……………第二章 百巻記念特集	創刊号・第二巻一巻他・特集……………大悟法雄 60	「創作」と牧水……………高橋 希人 93	創作社の歌風とその進展……………大板 泰 97	若山牧水概論……………竹中 啓二 101	初期文壇期……………桜井 敏 105	「富士百言」について……………井出一太郎 111	牧水先生と佐久……………中川 一致 114	初期・創作」を語る……………遠藤 典太 118	我が師・牧水と一致……………	牧水の足跡……………杉本 寛一 121	禮山の牧水御夫妻……………武田 全 122	思い出あれこれ……………久原嘉衛門 128	石川啄木君と僕……………若山 牧水 139	創作復活号大正二、六年、大正三、十二年創作社全国大会……………大正 141	大震災・大火記念号……………大正 141	大正十四年社友名簿……………詩歌時代・牧水追悼号……………大正 155	昭和十五年牧水十三回忌追善全国大会……………二十一年復刊号 三十一年大会 五十巻 六十巻記念号……………没後五十年 七十巻 八十巻 生誕百年 九十巻記念号……………新創作・創作全国大会記念号……………牧水喜志子の歌鑑賞……………海の声「独り歌へる」別離「路上」死か芸術か……………「みなかみ」秋風の歌「砂丘」朝の歌「白梅集」……………「さびしき樹木」鈴谷集「くろし」山桜の歌「黒松」……………「筑摩野」眺望以後……………物故社友十首抄……………私の好きな牧水の歌一首……………百巻記念社友作品集「朝霧夕雲」より……………
----------------------------	--------------------------------	--------------------------------------	-----------------------	--	---	---------------------------	--------------------	-----------------------------	---------------------------	----------------------	-------------------------	----------------------	--------------------	--------------------------	-----------------------	-------------------------	----------------	---------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	---------------------------------------	----------------------	-------------------------------------	--

振り返れば数え切れない程の多くの
方々が誌上に登場され、歌を愛し、『創
作』を愛して続けてきてくださった百
年であることを改めて思い頭を垂れる
のみであった。

殊にこの「記念号」のために特別寄稿
として巻頭を飾ってくださった二十名
の方々のお心こもる貴重な書き下ろし
玉稿によって、この「百巻記念号」がよ
り一層充実立派な記念号として刊行で
きたことに心からの感謝と御礼を申し
上げたい。

最後に、牧水を語るに大悟法利雄氏
の功績ははずすことのできない周知の事実で
ある。

昭和三年、牧水最後の編集である『創作』
九月号巻頭には虫の知らせとも思えるが、七
月撮影の写真「利雄氏と牧水」「家族と牧水」
を載せている。父旅人弟妹からは「アトーン」
(父に次ぐ人＝叔父)と呼ばれ、利雄氏は牧
水一家にとって身内のような存在であった。

この百巻を機に何とか創作社として、また
若山家としてご仏前に感謝の意をお伝えでき
たらを考えていたところへ、現「樹林」主宰大
坂泰氏からのご提案ご協力もいただき、昨年
八月二十四日の牧水誕生日に、若山聚一、大



「利雄氏と牧水」(昭和3年7月 牧水宅にて)

坂泰、榎本篁子三者連名で感謝状と記念品を
ご遺族大悟法利雄様、小坂弘子様、田中早苗
様ご姉妹にお届けすることができた。その上
ご両親の思い出を寄せていただくこともな
ったのである。

百巻の締めくくりとして、牧水、喜志子、
旅人の格別な思いと晩年の心残りを果たせた
のではないかと、若山聚一主宰共々荷を下ろ
した安堵感を味わい迎えた『創作 百巻記念
号』刊行であった。

いのち
生命の聲重きを載せて一世紀創作百巻畏
みて編む

榎本篁子

第三章 社内特集

『創作』 創刊百巻を祝う	歌代宇多利	282
『創作』 歌誌百巻を祝す	梅崎 稔市	283
『創作』 百巻に寄せて	福岡 薫	284
『創作』 百年の重み	榎本 篁子	285
喜志子先生と老椿・梅	安積 博子	286
若山旅人先生	猪飼 愛子	288
みなかみ紀行の文学空間 法師	石田 利夫	289
大悟法先生との思い出	伊藤 英一	291
大畑草雨師第一誄草に侍して	古知 勾雨	292
『創作』 百巻を祝す	齋藤 雪石	293
師 小作春子	包坂美佐子	294
『創作』 創刊百巻記念号に寄せて	佐藤 フザ	296
喜志子先生と母・白井敏子	沢之 翠	297
『創作』 と人脈	嶋 武志	298
『創作』 の思い出	高橋美枝子	300
創作 気仙沼全国大会	伊達 信夫	301
短歌の思い出	田中奈生美	302
創作「社中競詠」	田中 蒼治	303
短歌と共に	永田きみ子	307

比較と鑑賞	西木 忠一	308
あさきゆめみし	西田 多門	309
『創作』 百巻記念号を迎えて	林 圭子	310
『創作』 百巻記念号に寄せて	古谷 義次	313
歌誌「創作」との出会い	三塚 妙子	314
竹中里子先生と私	物江 利子	315
印象派エジプトの旅	田中ハツセ	316
牧水通り	若松 幸恵	317
『創作』 と祖母若山喜志子	若山 三郎	318
百巻記念社友特別作品集(一)		
百巻記念社友特別作品集(二)・十首詠		
牧水・喜志子 私の愛読歌		
私の好きな牧水秀歌一首		
『創作』 略年譜		
石黒清介氏の歌		
記念号編集に当たって		
記念号編集に当たって		
若山 聚一	411	
榎本 篁子	408	

「日本ほろよい学会」秋田大会への参加 金子安夫

秋田市での第十二回「日本ほろよい学会」へ

参加するメンバー林茂樹、浅井治、長澤靖夫、千野慎一郎、三宅芳則、原悦子、事務局の大島葉子及び金子安夫の八名は、平成二十五年十月十日（木）早朝、東海道新幹線三島駅を立ち、東京経由で東北新幹線にて盛岡へ。東北新幹線の車中では恒例の酒盛り、浅井理事持参の銘酒久保田の「洗心」四合瓶二本を長澤理事お手製の沼津の地魚を肴に和やかに酌み交わし、銘酒「喜久酢」も空となる。気の毒だったのはレンタカーの運転を引き受けてくれた三宅君、好きなお酒も匂いだけで我慢しても



田沢湖畔にて

らった。盛岡から角館へ秋田へ平泉への二泊三日のマイクロバス（レンタカー）の運転をベテランドライバーの三宅君にお願いした次第です。

紅葉がまだ浅い中を田沢湖へ。秋田名物の稲庭うどんと少々のお酒で昼食。遊覧船にて湖内を周遊。田沢湖は、周囲二十キロメートル、水深四二三メートル、面積は二十六キロ平方メートルと大きな湖で、伝説の「たつこ姫」や御座石神社を巡り、ベルシアンブルーの湖水を堪能して船を降り、角館へ車を走らせる。武家屋敷の青柳家・石黒家を見学する。ゆつくりと見学した後、一日目の宿「武家屋敷ホテル」に到着。夕食は純日本調の和室で地酒を堪能。三宅君も運転初日を無事終えて楽しく痛飲。

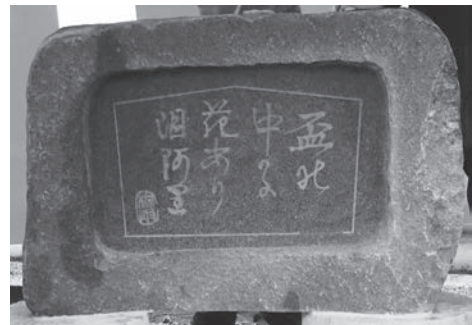
翌朝、昔の商家の雰囲気を残している座敷の見学を兼ねて、宿舎近くの老舗の安藤醸造へ。地元産の家伝味噌、醤油、漬物などのみやげを購入し、新潮社記念文学館へ。文学館には、角館出身の新潮社創立者佐藤義亮氏の生い立ちや、佐藤氏及び新潮社と関係の深い



角館「武家屋敷ホテル」前にて

菊地寛、島崎藤村、国木田独步、田山花袋、芥川龍之介、有島武郎などが紹介されていた。次に平福記念美術館と樺細工伝承館を見学する。平福記念美術館では、平福百穂の没後八十年展を開催していた。百穂は牧水の第一歌集『海の声』の表紙を描いた日本画家で、アララギ派の歌人としても知られ、伊藤左千夫や長塚節、斎藤茂吉、島木赤彦ほかの歌人とも交流を持っていたという。

角館を後にして秋田市へ向かう。雨が降り出した中、秋田市郊外の食堂「北前船」にて一献傾けながらの昼食。食後、宿舎の「アルバートホテル秋田」でマイクロバスを降り、藤田嗣治展を開催中の秋田県立美術館へ。



一九三〇年
代にパリで描いた壁画「花鳥図」が再現展示されている。高さ一・四五メートル幅十四メートルの大作の中には、鶏、雉、鶉などの中に菊、芥子、百合などの花が配置され、水辺に集う鴨やガチョウ、鷺も描かれ、日本の自然を題材にした花鳥画が金箔の上に油彩で仕上げられており、雅な雰囲気漂わせている。二階大壁画ギャラリーには、「秋田の行事」が展示されている。竿燈祭りや梵天飾りを中心に、各種の行事が細部にわたり描かれており、秋田県民の当時の生活振りが力強く表現されている。

午後四時が近づき、日本ほろよい学会^{ていりやうかい}初代名誉会長^{ていりやうかい}嵯峨康隆^{さがやすたか}早稲田大学名誉教授の句碑「孟の中に花あり涙あり」の序幕式に向かった。道に迷い、句碑のある那波家水汲み場（二丁目橋たもと）へは序幕ぎりぎりに駆けつける次第となってしまう。

序幕後、「日本ほろよい学会」会場の協働大町ビルへ。午後五時半に那波三郎右衛門氏の司会で開会、佐佐木幸綱会長の挨拶、近世文学研究者で元秋田経済法科大学学長の井上隆明氏の「江戸文学と嵯峨先生」の講演があり、ピアノとヴァイオリンによる「世界・酒の名曲メドレー」で優雅なムードとなる。

秋田県酒造共同組合の小玉真一郎理事長の来賓挨拶で、秋田県内に酒造会社は三十九社あるとのことである。秋田県は酒処である。卓には秋田の銘酒が並ぶ。祝宴となり、秋田の銘酒を心ゆくまで味わう。

「日本ほろよい学会」副会長^{さか}の石川^{いしかわ}錬治郎氏、実行委員長の那波氏、日向市東郷町若山牧水顕彰会の小林理教



挨拶をする石川錬治郎「日本ほろよい学会」副会長

会長や若山牧水延岡顕彰会の塩月眞会長、田丸眞副会長など宮崎県からの参加者七名とも一年振りの再会となり、美味しい秋田の銘酒を酌み交わす。会場を移しての二次会では、

秋田市の方たちとの会話がだいに弾んだ。「日本ほろよい学会」のたまものである。夜半には雨も止んだ。

最終日(十二日)の行程は高速道路で平泉の中尊寺を目指す。中尊寺は天台宗大本山、慈覚大師の開山で、「平泉―仏国土(浄土)を表す



建築、庭園及び考古学的遺跡群」としてユネスコの世界文化遺産に登録されている名刹。国宝の金色堂や重要文化財を伝える仏教美術などの宝庫を五十数年振りに参詣する。奥州藤原四代の歴史と文化の重さに敬虔な気分に入る。昼食後、世界文化遺産の特別史跡の毛越寺へ。本堂を拝観し、浄土庭園の大泉が池を眺め参加者全員の記念撮影を行う。一ノ関駅でレンタカーを返却して新幹線で帰路につく。品川駅で前回の宮崎への旅のときと同様に、「稲田屋」で二泊三日の小旅行の思い出を肴に美味しいお酒を酌み交わし、大島君の浅井理事への「日本酒飲み比べ」挑戦の余興もあって、たのしい打ち上げとなった。



中尊寺参道にて

今回の「日本ほろよい学会」参加の旅の行程は長澤理事が計画してくださり、宿舎や昼食場の選定のほか、レンタカーの手配まで細かいところまで心遣いをしていただきました。また三日間安全運転をしてくれた三宅芳則名ドライバーに御礼を申し上げます。

毎日仕事に追われる身に、「たまには休めよ」と誘ってくれた林理事長をはじめ、同行の各位に感謝申し上げます。久しぶりの報告文をやっと仕上げることができました。仕事をする方がずーっと楽です。

以上



毛越寺大泉が池にて

第60回 沼津牧水祭

碑前祭・芝酒盛

十月二十日(日)午前十一時



挨拶をする榎本篤子館長

朝起きて空を見上げて思いました。十月六日の沼津千本プラザで開催された沼津牧水祭・短歌大会の日のことを。あの日は、第十六回若山牧水賞を受賞された大下一真先生をお招きして演題「短歌の力」を聴き、投稿短歌一二一首のうち、出席者の作品についてユーモアがあり、適切な講評をいただいたが、晴れ渡った秋日和でした。

碑前祭当日は、生憎の雨天となっていました。降雨の中、榎本篤子^{むらこ}沼津市若山牧水記念館館長によつて沼津千本浜公園内の「幾山河」の歌碑への献花・献酒が行われました。その後牧水記念館に会場を移して、式典と芝酒盛が短歌愛好家、酒を愛する人たち約三〇〇人が集つて始まりました。

林茂樹本会理事長の挨拶。めつたに雨に降られたことがなかったが、昭和五十年以降、平成十年と十六年の二回だけ雨だったことなど雨にまつわる話をしつつ六十年を振り返つた。つづいて栗原裕康沼津市長、工藤達朗沼津市教育長が、長年の若山牧水顕彰活動に対する感謝と六十年の重みに寄せる言葉を述べた。榎本館長は沼津が市制九十周年を迎えたことに触れながら大正九年に沼津に移り住んだ牧水が昭和三年の市制記念の式典に参加したことと牧水の創作活動などを話された。

花柳寿宗氏の牧水高弟大悟法利雄氏朗詠の牧水短歌に合わせた日本舞踊につづいて、第二十四回中学生短歌コンクールの表彰式が行なわれた。約一七〇〇首もの応募があった。その中から特選に選ばれた十首の一人一人の作品を読み上げると会場より大きな拍手が起こり、生徒は元気に表彰状を受け取っていました。私はこの中学生諸君が沼津牧水会に入

会し、短歌会を更に盛り上げてくれることを願っています。

沼津牧水会会員でソプラノ歌手の高田紹代さんによる牧水の「沼津を詠んだ歌」の独唱。「牧水のうた」を歌う会による中村義光氏作曲の牧水短歌四首の合唱で式典を閉じた。

式典の後は、おなじみの青木敬堂氏による尺八の演奏後に恒例の樽酒「牧水」の鏡割り。真野彰一沼津市議会議長の音頭による乾杯で記念館内での「芝酒盛」が始まった。外はまだ雨が降りつづいている。碑前祭実行委員たちは外の芝生の上にテントを張りその中で牧水と酒について語り合い酒杯を重ねて祭りを満喫しているようでした。会場内では高田紹代さんの牧水「酒の歌」、岳心流沼津愛吟国風会の詩吟、ぬまづ観光ボランティアガイドの皆さまの合唱、沼津ハーモニカクラブの合奏、「日本の歌・牧水の歌」をみんなで合唱。そして裾野五竜太鼓保存会と芸人寄台衆「ようそろ」の勇壮な太鼓の音が館内に迫力満点に響き渡り、会が盛り上がる中、めでたくお開きになりました。

本年は雨天のため車で来場の方が多く駐車場へのご案内に不備点があり、大変ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

(本会会員 三宅芳則)

第60回沼津牧水祭 短歌大会

十月六日(日)
午前十時三十分
千本プラザ音楽
ホール「松籟」



第六十回沼津牧水祭・短歌大会は、講師に鎌倉の名刹瑞泉寺住職で、「まひる野」の編集委員の大下一真先生をお迎えして開催された。大下先生は第五歌集『月食』で第十六回若山牧水賞を受賞され、それ以前に、第三歌集『足下』で日本歌人クラブ賞を、第四歌集『即今』で寺山修司短歌賞を受賞されている。山崎方代に「坊ちゃん、さあ」と話しかけられ、方代の恋の話を聞かされたという。生前から方代と交流があり、没後「方代研究」を創刊し、毎年秋に方代忌の集まりを開いておられる。

午前の「短歌の力」と題した講演では、自然、家族そして旅を詠んだ若山牧水。九十歳で亡くなる直前まで詠み、命の霊液の最後の一滴まで歌ったと言われた窪田空穂。安保闘争の時の警官であり、自身の信条を詠んだことにより思想が違ふと辞職に追いこまれた筑波杏明。それに対して歌は実生活を詠まなくてよろしいとポーズを作った寺山修司。日常の中の孤独、軽さ、笑いを詠んだ山崎方代。東日本大震災後の生活と苦悩を歌った大口玲子。この六人の歌を三首ずつ引用して、このように短歌は花鳥風月の風雅なものを詠むだけでなく、何でも題材にしてしまうことができる」と話された。その上で、今あることの何でも題材にできるということとは、ある意味では短歌は時代の証言にもなりうると論じ、また短歌は五七五七七のリズムの美しさに魅力があるが、破調することによって、屈折感を出すこともできると言及し、こういう短歌の力を信じて歌を作ろうと結ばれた。

午後の詠草の歌評では、出詠歌百二十一首のうち、当日の出席者九十二名全員一人一人の歌評を丁寧にくださった。時にはユーモアたっぷりに解説してくださるので、和やかな雰囲気の中にも、それぞれの作者にとつて納得できる歌評であったと思われる。

講師選の「牧水賞」三首と互選賞上位三首を紹介します。

牧水賞一席 下田市 渡辺つぎ

百余名かくれんぼうはどこへ行った百三
歳のわたしは鬼か

牧水賞二席 静岡市 久保田美世子

煙る雨吸いて夏草ビシビシと老いの足打
つつるぎ秘めたり

牧水賞三席 沼津市 桜井光子

女房とふを忘れたはずの夫が呼ぶ「お
いお母さくん」また呼んでゐる

市長賞 広島県大竹市 赤瀬勝昭

肩車の子よりも父が嬉し気に賑わう夜店
のぞいてゆけり

市議会議長賞 沼津市 土屋八代枝

ぼろぼろの童謡絵本一冊は子らに歌ひし
母の声染む

教育長賞 下田市 渡辺つぎ

百余名かくれんぼうはどこへ行った百三
歳のわたしは鬼か

最後に、大下先生の短歌二首

煩惱と呼ぶはたやすきかなしみぞ這いつ
くばって草抜いている 『存 在』

雲水のむかし草鞋に雪踏みし円覚寺道今
日桜降る 『草 鞋』

(本会会員 高橋公子)

第26回

雛の歌会

三月一日(土)
午後一時三十分
沼津市若山牧水
記念館ラウンジ

前日の春本番のような日和とは一転、肌寒い曇空で、あいにく富士山を望むことはできませんでしたが、講師に大口玲子先生をお招きして「雛の歌会」は催されました。

出詠歌七十八首、出席者四十八名でしたが、記念館のラウンジは、熱心な出席者の程よい緊張感に満ちていました。

大口先生は、地味な服装の割には軽快闊達な身のこなしで、丁寧で明解な歌評に私たちは魅了されて我を忘れるほどでした。先生は昨年の若山牧水賞を最年少の四十四歳で受賞された気鋭の才媛だという話も理解できます。



先生の講評が私の参考になった歌のいくつかを紹介いたします。

ふる里はあまりに遠き老い母の電話のこゑの近ければなほ 細井誠治

「あまりに遠き」とすると「き」は形容詞の連体形で下にかかってしまうので、「あまりに遠し」と一旦、ここで切ると二句切れの歌になって意味的にもよい。

元旦に救急車は突つ走る意識不明の夫を 横たえ 伊勢幸子

二句目が字足らずで、リズム感が弱い。「救急車両」とした方がよい。リズム感が悪いとスピード感が出てこないの。

喜寿にして金時山の頂上に立ちたりわが 連用日記に大きくしるす 山田米子

「喜寿にして」が説明っぽいので、「喜寿のわれ」として、「金時山の頂上に立ちたり日記に大きくしるす」とすれば、この歌の伸び伸びとした魅力が引き出される。

次に先生が選んだ十首を紹介いたします。

行く先の異なる人ら背を並べひととき乗り合ふ黄昏のバス 飯田ふみ代
参列者の多さに骨は足りるかと言う姪のいて箸を取りたり 黒柳 爽
立哨の任ほどけ得ぬ叔父ありき戸口に寝衣のまま突つ立ちて 大原葉子

午年に跳ね馬乗せたフェラーリが二十六台伊豆路を駆ける 矢島 智

あご先に右指で作る二等辺三角形は「好き」といふ手話 福崎享子

恥ずかしいなんておたがい言つてられない母のほと毛の汚れを拭う 村松建彦
水鳥にふたりはなりて芦の湖のスワンボートのペタルを踏みぬ 長野堯子

夜勤終へ強張るからだの息子は帰るゆずを浮かべて初湯となせり 一杉智子

柿田川梅花藻揺るる水の面の母の肩抱くわれの泣き顔 勝山多美子

「ゑ」の文字のもてる明るさほつこりとひとり笑みたる一瞬もあり 星谷亜紀

大口先生は、限られた時間の中、出席者全員の歌を一首ずつ丁寧に講評されました。その中で何度かおっしゃっていた「短歌は限られた少ない言葉で表現するので、ギュッと凝縮して表現すると焦点がハッキリとわかってよい。また、助詞の『も』という言葉は、俵万智さんが言っているように便利な言葉で、あれもあるこれもあるということになるので注意がある」という話が、非常に印象的で私たちが短歌を作る時、一字一句がいかに大切かということを改めて認識した次第です。

(本会会員 飯塚 忍)

文 化 講 座

牧水の旅の仕方

日 時 平成25年5月25日(土) 午後3時～4時30分
講 師 池 内 紀 氏(ドイツ文学者)
会 場 沼津市若山牧水記念館ラウンジ



初心者のための短歌講座

日 時 平成25年4月～平成26年3月
毎 月 第2土曜日 午前(全11回)
講 師 須永秀生氏 青木朝子氏

牧水記念館短歌会

日 時 平成25年4月～平成26年3月
毎 月 第2土曜日 午後(全11回)
講 師 須永秀生氏 青木朝子氏



牧水記念館俳句会

日 時 平成25年4月～平成26年3月
隔 月 第4日曜日 午後(全6回)
講 師 榎本好宏氏

書 道 講 座

日 時 平成25年4月～平成26年3月
毎 月 第3火曜日 午後(全10回)
講 師 成田真洞氏



サロン音楽の夕べ

沼津市若山牧水記念館ラウンジ

古楽コンサートシリーズ29

「バロックのひととき」

日 時：平成25年 5 月19日(日)
午後 6 時45分
出 演：永井陽菜 (ソプラノ)
中野茉莉子 (ソプラノ)
齋藤志野 (フルート)
大城 愛 (フルート)
方壁さをり (コントラバス)
北田奈津子 (ギター)
杉山佳代 (チェンバロ)
来場者：140人



男性コーラス夢鳴群

「日本 心に残る、思い出の歌」

日 時：平成25年 6 月22日(土)
午後 6 時30分
出 演：夢鳴群 (コーラス)
中川貴久美 (ピアノ)
川島祐子 (フルート)
来場者：85人

懐かしの映画音楽・日本の心を歌う

日 時：平成26年 2 月15日(土)
午後 6 時30分
出 演：山内達哉 (ヴァイオリン)
小林真人 (ピアノ)
井尻兼人 (チェロ)
大河内淳矢 (尺八)
来場者：84人



平成 25 年度 事業 報告

総 会 (第27回総会) 平成25年5月8日(水) 午後6時～7時
理事会 第1回 (通算138回) 平成25年4月14日(日) 午後6時～7時
第2回 (通算139回) 平成25年8月7日(水) 午後6時～7時
第3回 (通算140回) 平成25年12月5日(水) 午後6時～7時
第4回 (通算141回) 平成25年12月20日(金) 午後2時～3時
第5回 (通算142回) 平成26年3月12日(水) 午後6時～7時

会 報 第26号 平成25年5月15日発行
第26号別冊 平成25年5月15日発行
館 報 第51号 平成25年9月15日発行
第52号 平成26年3月15日発行

1 調査研究事業

- (1) 第14回「百草園牧水歌碑祭」へ参加(主催:東京牧水会)
日 時:平成25年8月25日(日)正午
会 場:東京都日野市百草園 牧水歌碑前
参 加 者:勝又十枝、原悦子、三宅芳則
- (2) 第63回 日向市の「牧水祭」へ祝電(主催:宮崎県日向市)
日 時:平成25年9月17日(火)午前9時30分
会 場:日向市東郷町坪谷 若山牧水生家裏牧水歌碑前及び
牧水公園ふるさとの家
- (3) 第12回 日本ほろよい学会 秋田大会へ参加
(主催:日本ほろよい学会秋田大会実行委員会)
日 時:平成25年10月10日(木)～12日(土)
会 場:畔峻康隆句碑序幕……秋田市川反 那波家水汲み場前
日本ほろよい学会秋田大会…秋田市大町
「協働大町ビル」5階 太平の間
参 加 者:林茂樹、浅井治、金子安夫、長澤靖夫、千野慎一郎、
原悦子、三宅芳則、大島葉子
- (4) 第57回 暮坂峠「牧水まつり」へ祝電(主催:牧水詩碑保存会)
日 時:平成25年10月20日(日)
会 場:群馬県吾妻郡中之条町 暮坂峠
- (5) 若山牧水歌碑除幕式へ祝電(主催:若山牧水の歌碑を建てる会)
日 時:平成25年11月16日(土)午前10時30分
会 場:飯能市原市場 白髭神社境内
参 加 者:榎本篤子沼津市若山牧水記念館館長
- (6) 第80回「牧水歌碑祭」へ祝電(主催:若山牧水延岡顕彰会)
日 時:平成26年3月23日(日)正午
会 場:延岡市 城山公園内 牧水歌碑広場

2 第60回 沼津牧水祭の運営

- (1) 短歌大会
日 時:平成25年10月6日(日)午前10時30分～午後4時15分
会 場:千本プラザ音楽ホール「松籟」
講 師:大下一真氏
(第16回若山牧水賞受賞者、「まひる野」編集委員)
応募短歌:121首
参 加 者:92人
- (2) 碑前祭・芝酒盛
日 時:平成25年10月20日(日)午前11時～午後2時30分
会 場:沼津市若山牧水記念館(雨天のため)
参 加 者:327人

3 文学講演会及び文学講座等の開催

- (1) 文化講座「牧水の旅の仕方」
日 時:平成25年5月25日(土) 午後3時～4時30分
会 場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
講 師:池内 紀氏(ドイツ文学者)
参 加 者:57人
- (2) 第26回「雛の歌会」
日 時:平成26年3月1日(土)午後1時30分～4時
会 場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
講 師:大口玲子氏(第17回若山牧水賞受賞者、「心の花」)
応募短歌:78首
参 加 者:48人
- (3) 初心者のための短歌講座
日 時:平成25年4月～平成26年3月
毎月第2土曜日 午前10時～12時
会 場:沼津市若山牧水記念館会議室
講 師:須永秀生氏、青木朝子氏
参 加 者:11回開催 延べ216人
- (4) 牧水記念館短歌会
日 時:平成25年4月～平成26年3月
毎月第2土曜日 午後1時30分～3時30分
会 場:沼津市若山牧水記念館会議室
講 師:須永秀生氏、青木朝子氏
参 加 者:11回開催 延べ110人

- (5) 牧水記念館俳句会
日 時:平成25年4月～平成26年3月
毎月第4日曜日 午後2時～4時30分
会 場:沼津市若山牧水記念館会議室
講 師:榎本好宏氏
参 加 者:6回開催 延べ90人
- (6) 書道講座
日 時:平成25年4月～平成26年3月
毎月第3火曜日 午後1時～3時
会 場:沼津市若山牧水記念館会議室
講 師:成田真洞氏
参 加 者:10回開催 延べ84人
- (7) 第24回「中学生短歌コンクール」募集・表彰
募集期間:平成25年5月30日(木)～9月10日(火)
応募短歌:1,754首(15校 1,754人)
入選短歌:51首
選 者:青木朝子、須永秀生、杉山芳春、曾根耕一、星谷亜紀
表 彰:平成25年10月20日(日)「沼津牧水祭・碑前祭」にて
- (8) 音楽イベント
第1回 古楽コンサートシリーズ29「バロックのひとつとき」
日 時:平成25年5月19日(日)午後6時45分
会 場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出 演:永井陽菜、中村茉莉子(ソプラノ)、
齋藤志野(フルート)、大城 愛(フルート)、
方壁きをり(コントラバス)、
北田奈津子(ギター)、杉山佳代(チェンバロ)
来 場 者:140人
第2回 男性コーラス 夢鳴群「日本 心に残る、思い出の歌」
日 時:平成25年6月22日(土)午後6時30分
会 場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出 演:夢鳴群(コーラス)、中川貴久美(ピアノ)、
川島祐子(フルート)
来 場 者:85人
第3回 懐かしの映画音楽・日本の心を歌う
日 時:平成26年2月15日(土)午後6時30分
会 場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出 演:山内達哉(ヴァイオリン)、小林真人(ピアノ)、
井尻兼人(チェロ)、大河内淳矢(尺八)
来 場 者:84人

4 企画展示

- (1) 「中学生短歌コンクール」入賞作品展示
(成田真洞氏揮毫による特選10首、入選41首の短冊)
期 日:平成25年10月20日(日)～10月27日(日)
会 場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
入 場 者:386人
- (2) 平成25年度「書道講座」受講者作品展示
期 日:平成26年3月18日(火)～3月30日(日)
会 場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
入 場 者:205人

5 その他の事業

- (1) 協賛事業
第84期 将棋「棋聖戦」第3局 沼津倶楽部にて対局
羽生善治棋聖 対 渡辺明三冠
主催:産経新聞社、公益社団法人日本将棋連盟、日本将棋連盟沼津支部
後援:沼津市、沼津市教育委員会、一般社団法人沼津倶楽部、
㈱プロジェクトN、本会
実施事業:大盤解説会、こども将棋大会、シニア・リレール将棋大会、指導将棋会
日 時:平成25年7月6日(土)午前8時30分～午後7時30分
会 場:沼津市若山牧水記念館
参加者数:こども将棋大会 46人、シニア・リレール将棋大会 18人、
指導将棋会 22人、大盤解説会 224人

公益社団法人沼津牧水会定款（抜粋）

- 第一条 この法人は、公益社団法人沼津牧水会と称する。
- 第二条 この法人は、主たる事務所を静岡県沼津市千本郷林一九〇七番地の二に置く。
- 第三条 この法人は、歌人若山牧水を顕彰し、文学的業績の研究を深め、短詩型文学の普及を図り、もつて、教育文化の振興に寄与することを目的とする。
- 第四条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- (1) 歌人若山牧水に関する調査研究
- (2) 沼津牧水祭（短歌大会及び碑前祭）の運営
- (3) 文学講演会、文学講座等の開催
- (4) 沼津市若山牧水記念館の管理運営の刊行
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 第五条 この法人に次の会員を置く。
- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体
- (2) 賛助会員 この法人の事業を援助する個人又は団体
- (3) 名誉会員 この法人に特に功労のあつた者で、会員総会の決議をもつて推薦されたもの
- 第六条 前項の会員をもつて、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。
- この法人の会員にならうとするものは、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、名誉会員に推薦された者は、入会の手続を要せず、本人の承諾をもつて会員となるものとする。
- この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員になった時及び毎年、会員は、会員総会において別に定める額を支払う義務を負う。
- 第七条
- 公益社団法人沼津牧水会入会金及び会費規程
- 第一条 この規程は、公益社団法人沼津牧水会定款第七条に基づき、入会金及び会費について定めることを目的とする。
- 第二条 定款第七条第一項に規定する入会金は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 三〇、〇〇〇円以上
- (2) 賛助会員 一〇、〇〇〇円以上
- 第三条 定款第七条第一項に規定する会費は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 五、〇〇〇円（年額）
- (2) 賛助会員 一〇、〇〇〇円以上（年額）

（理事長）長 杉山 茂樹
（副理事長）長 杉山 光男
（理事）事 浅井 治 須永 英男
（監事）事 八十濱俊一 保坂 輝夫
（事務局）大島 重義 長澤 靖夫
伊藤早智子 田中 和男
近藤美智代 金子 安夫
納谷 瑞穂 青木 朝子
河辺龍二郎 高橋 公子

編集後記

平成二十五年は、「沼津牧水祭」の六十回目という節目の年でしたが、若山牧水が明治四十三年三月に創刊した「創作」が百巻を迎えるという記念の年でもありました。

『創作』百巻を記念して『創作 百巻記念号』を発刊された熱い思いを牧水長子・旅人様のご長男で『創作』主宰の若山聚一様並びに旅人様のご長女・榎本寧子沼津市若山牧水記念館館長にいたしましたのでした。

十月に開催された第十二回「日本はろよい学会秋田大会」に本会から八名が参加いたしました。金子安夫理事に参加報告を寄せていただきました。日本酒を愛することをとおして牧水を顕彰している関係者の皆さまにお会いして、親交を深めることができました。

ドイツ文学者で、牧水ファンを自認しておられる『新編みなかみ紀行』（岩波文庫）の編者池内紀先生にお越しいただき、「牧水の旅の仕方」の講演会を開催し、大好評でした。

「沼津牧水祭・短歌大会」の講師には大下一真先生、「難の歌会」の講師には大口玲子先生をお迎えし、ともに充実した歌会となりました。

「沼津牧水祭・碑前祭」は、雨天のため、会場を牧水記念館に移しての開催となりましたが、多くの皆さまにご参加いただき、にぎやかに催すことができました。

牧水記念館で催している「短歌講座・短歌会」「俳句会」「書道講座」及び「サロンコンサート」も好評でした。

第八十四期将棋「棋聖戦」第三局が沼津倶楽部で開催されましたが、本会も後援に加わって、大盤解説会、こども将棋大会、シニア・リレー将棋会、指導将棋会が牧水記念館で実施され、大勢の参加者がありました。本年も七月五日（土）に開催され、前日には「前夜祭」が沼津リバーサイドホテルで催されます。ご参加ください。